

傳記を参照して、其の手記に残る數多の指示を綜合すれば足ることである。即ちソグド Sogdiane 地方に於てもサマルカンド Samarkand から鐵扉の隘路 (Défilé des Portes-de-Fer) を經てテルメズ Termez 附近のバタケサル Patta-Kesar 渡船場に至るまで、容易に其の道筋を辿ることが出來、其處からは本道がバルク Balkh (縛喝) に直通して居る。法師が此のバルクから二方面に迂廻した道筋、即ち、一方では自分の都合で先づ東方クンヅズ Koundouz 方面に、他方では又其の邊の教區長等の敬虔な懇望に従ひ已むを得ず西南に廻つた、其の兩行程は扱て置き、愈ゝバルクを出ると、先づ揭職國即ち現今ダラ・ガズ Darrah-Gaz 又はタマリス谿谷 (Vallée-des-Tamaris) と云ふ地方から南に進んだもので、舊い「城市の母」(Mère des Cités) 附近の田野を肥やして水の吸ひ盡される川を溯つたものと考へてよい。それからの道筋は南に轉じてゐるが、それは今ダラ・ユスフ Darrah-Yousouf と云ふ名で知られてゐる側方の谿谷に進入したものである(附圖第三参照)。それからカラ・コタル Kara-Kotal 峠(標高二八四〇米突)の上方クルム Khoulm 川水源の眞上に當る山中で、現今ハイバク Haibak とターシュクラガ